

# 青谷の反対運動振り返る

1980年代に中国電力が原発建設を検討した鳥取市青谷町青谷(旧青谷町青谷)の長尾鼻で、反対運動に関わった横山光さん(61)＝写真＝の講演会が31日と6月1日、鳥取市内で開かれる。両日催される映画「渡されたバトン さよなら原発」(監督・池田博穂、脚本・シエームス三木)の上映に合わせた企画で、上映会実行委が主催、毎日新聞鳥取支局などが後援する。

【高嶋将之】

## 原発建設の芽 摘んだ

横山さんによると、青谷原発の計画は1981年3月、地元紙などの報道で広く知られるようになった。同年3月8日、地域住民らによって県内各地で反対する団体が作られ、地元では「青谷原発設置反対の会」が翌82年3月に結成された。

中国電は計画自体の存在を一貫して否定したが、同年4月には気高郡連合婦人会が郡内有権者の過半数、9298

## あすと1日 関係者講演

### 鳥取市内 新潟の記録映画上映も

「渡されたバトン」は新潟県旧巻町(現新潟市)で69〜2003年に展開された運動を描く。上映は31日、とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)で午後2時と同7時。1回目上映後の午後4時から横山さんと「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」事務局の安達進さんの講演がある。1日は同市気高町浜村のゆうゆう健康館けたかで午後1時半から映画上映。同3時半、横山さんが講演する。

料金は1200円(前売り1000円)、高校生以下と障がい者は無料。31日の1回目は無料託児所もある。31日開催分は山内淳子さん(080・1910・0349)、1日開催分は本部享司さん(090・7972・9787)。

中国電力青谷原発の計画を知った時、日置谷小(現青谷小)教諭だった横山光さんは28歳だった。79年の米スリーマイル島の事故が脳裏をよぎったという。「自分の地元で原発というのは強烈な印象だった」と振り返る。

「青谷原発設置反対の会」の事務局で、大学教授を招いて講演会を開いたり、問題を周知するチラシを配布する

## 力が弱い住民でも止められた

などした。「住民は力が弱いから、先手必勝で止めることが大事だった」。まずは学習会を重ね、知識をつけた。

「町議会の意見書など一定の歯止めはかかっていたが、中国電幹部は『原発は日本海側』と話していて、いつひっ



くり返るか分からなかった」

89年の長尾鼻の土地の共有化に先だって横山さんが法務局で土地所有者を閲覧した時、中国電に関連があると思われる建設会社や住宅会社の名前を見つけた。「本気で建設を狙っていると実感した。うわさではなく、本当にやろうとしているんだと感じた」という。昨夏、福島県を訪れた際、被災者から「自分たちが捨てられているような気がする」という声を聞いたという。

「長い間の幸せを一瞬で奪う可能性がある原発は許されない」。自らの経験を語ることで横山さんは伝える。